

## 絵画資料読解スキルを高める 授業方略

—タイムトラベルを活用した授業開発・奈良時代—

大阪府中学校教諭

### 1 はじめに

本稿は、『社会科 中学生の歴史』（以下、教科書）に掲載されている、タイムトラベル③「奈良時代をながめてみよう」を用いた単元開発を通して、絵画資料読解スキルを高める授業方略の一例を述べる。

タイムトラベルなどの絵画資料を用いた授業実践は、これまでも多く見られる。しかし、それは、生徒の興味をひくためや、生徒に理解させたい内容をイメージしやすくするためではなかっただろうか。本稿では、絵画資料を興味づけや内容イメージのためだけに用いるのではなく、絵画資料の読解スキルを高め、読解したことをもとに時代を解釈・評価する授業とするための方略を提案する。

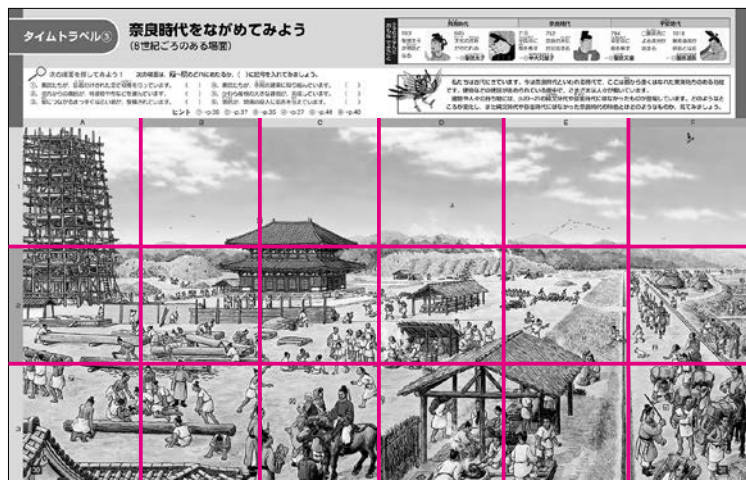
この授業を取り入れることで、読解スキルを高めるだけでなく、読み取りの共有や議論を生み出すことができ、言語活動の充実も期待できる。

### 2 絵画資料読解スキルを高める方法

#### (1) 絵画資料読解スキルの整理

まずは、生徒が身につけるべき絵画資料読解スキルとは何かを整理する必要がある。(A)「読み取りの視点」、(B)「問いを立てる」、(C)「ほかとの関連」、の3つの観点から述べる。(A)はじめは、資料のなかの1つのことがらに着目して「○○がある」、「○○は○○だ」と読み取る段階である。次に、1つのことがらだけでなく、複数のことがらに着目して、「○○は○○だが、○○は○○だ」という比較や、「○○には○○が多い」という分布を読み取る段階がある。複数のことがらに着目しているため、1つだけの読み取りよりレベルが高い。

(B) 読み取ったことから疑問をもち、問いを立てることは、(A)のような読み取りができることが前提なので、(A)よりも上位に位置づけられる。問いの答えは生徒自身に調べさせ、探究させたい。



資料1 『社会科 中学生の歴史』p.30～31 タイムトラベル③  
「奈良時代をながめてみよう」(赤線は筆者)

表1 絵画資料読解表

	① 見つけたこと	② ほかの資料と比べたこと	③ 理由や背景の説明
① 1つの視点	(1点)	(3点)	(5点)
② 複数の視点	(3点)	(5点)	(7点)
③ 問い	(0～5点)	(0～7点)	(0～9点)

(筆者作成)

(C) まずは、ほかの資料と関連づけず、1つの資料から読み取る段階がある。次に、「○○の資料では○○だったが、○○の資料では○○だ」という、資料間の比較をする段階。そして、ほかの資料や自身のもっている知識と結びつけて、「○○なのは○○だからだ」と、資料に書かれていることの理由や背景を説明する段階である。

以上を、生徒が身につけるべき絵画資料読解スキルとし、このスキルを生徒が身につけるための方法を述べる。

## (2) 「絵画資料読解表」の活用

絵画資料読解スキルを高めるためには、資料の何を、どのように見ればよいか、そして、スキルの高い読解とは何かが生徒にわかる形で提示する必要がある。そこで、「絵画資料読解表」を活用する(表1)。

生徒が絵画資料から読み取ったことを、この表に記入する。表のなかの数字は、読み取りの種類に対する得点を表している。

縦軸は、(A)「読み取りの視点」の2段階と、(B)「問いを立てる」の3つで分割している。ただし、③「問い」については、①「1つの視点」、②「複数の視点」と直接的な段階性があるものではないが、①や②の読み取りが前提となって③の問いを立てるため、表の見やすさの便宜上、縦関係となっている。縦軸は、下にいくほど得点が高い。しかし、③問いに関しては、問いの質によって、0点になるか高得点になるかを教師が判断する。

横軸は、(C)「他との関連」の3段階と対応して、①「見つけたこと」、②「他の資料と比べたこと」、③「理由や背景の説明」の3段階で分割している。横軸は、右にいくほど得点が高い。右のほうが考察も加わり、レベルが高くなっている。

「絵画資料読解表」を用いるメリットは、次の4点である。

まず、どのような読み取りを行えばよいかが一目でわかることである。右下にいくほど読解スキルが高くなることを生徒が自然と理解できる。また、この表に書きこむことで、自身が読み取った内容を整理しやすくもなる。

次に、得点化することで、より上位の読解スキルをめざす動機づけができることである。読解の成果を得点化することで、ゲーム感覚で読解を進めることができる。また、たとえ1点の読み取りばかりであっても、多くのことを読み取れば得点が高まるため、読み取りの能力が比較的低い生徒にもチャンスのある活動となる。下段の「問い」は、歴史の理解に重要なものほど高得点を与えるようにすることで、歴史を探究するための問いを立てるスキルを高め、また、読み取りのゲーム性も高めることができる。

そして、「絵画資料読解表」を用いることで、年間を通した継続的な学習ができることである。読解スキルは、単発の学習で身につけることは難しく、年間を通した継続的な学習が必要である。各単元のはじめに、タイムトラ

ベルの読解を行うことで、継続的に読解スキルを高めることができる。また、常に同じ表に記入していくことで、はじめは教師による分類が必要であるが、次第に生徒自身で、自分の読み取りがどこに位置づけられるのかを整理することができるようになる。そして、以前の読み取りと比較して、スキルの高まりを実感することができる。

さらに、「絵画資料読解表」によって、言語活動を充実させることができる。読み取ったことを表に書くとき、表を発表するとき、そして読み取りが正しいかどうかの検討をするとき、さらに問いを探究するとき、記述や口頭でのやりとりを行うことができる。

### 3 「絵画資料読解表」を活用した授業

「絵画資料読解表」を活用した授業の方略を述べる。授業の目標は、以下の3つである。

- ①「絵画資料読解表」を用いて、タイムトラベルから情報を読み取ることができる。
- ②聖武天皇は、仏教を重視し、天皇中心の中央集権国家をめざした政策を行ったことを理解する。
- ③聖武天皇の政策のメリット・デメリットを整理し、自身の考えで評価することができる。

授業は、以下の手順で行う。

#### 【第1時】

##### (1) 「絵画資料読解表」を活用した読解

###### ① 【次の場面を探してみよう！】 探し

タイムトラベルの上にある「次の場面を探してみよう！」に該当する場面を、班で協力して探す。その後、各班を順に指名し、読み取ったことへの答え合わせを行う。教科書では、資料1のように縦・横の位置を表す記号が示

されているため、読み取りの内容を共有しやすくなっている。

###### ② 「絵画資料読解表」による読み取り

資料を見て、見つけたことや疑問に思ったことなどを、班で協力して「絵画資料読解表」に箇条書きする。前単元のタイムトラベル①②で、同じ表を使用しているため、本単元ではいきなり生徒が表に書き込む。表2は、その記述例である。活動終了後、各班1つずつ順に読み取ったことを発表する。教師が板書し、「問い」の得点を確定し、不正確な読み取りがないかを確認する。発表し終わったら、各班で得点を計算し、報告する。

#### (2) 読解した内容の吟味

##### ① 読み取ったものを調べる

ここでは、読解したものが何なのかを、教科書をもとに吟味していく。本単元では、国分寺・<sup>ぞうよう</sup>雑徭・口分田の3つを扱い、簡潔に説明し、読み取ったことと、教科書の内容をつなげていく。

##### ② 制度や仕組みの読み取り

「どうして大きな建物が建てられているのか」や「白い服を着た人は、どうして働いているのか」を、なるべく生徒の読解をもとに教師が問い、教科書からその答えを探す。この活動によって、仏教を重視した政策を行ったことや、班田収授法やそれにもなう農民の負担について学習する。

#### 【第2時】

##### (1) 「問い」の探究

###### ① 「どうして聖武天皇は、仏教で国を治めようとしたのだろう。」

この活動でも、なるべく生徒の立てた問いを中心に学習を進めたい。聖武天皇の政策の意図を問うことで、当時の社会状況をとらえる。そして、聖武天皇の政策を簡潔に板書し、

表2 絵画資料読解表記述例

	① 見つけたこと	② ほかの資料と比べたこと	③ 理由や背景の説明
① 1つの視点	大きな建物がある。(C-2)	弥生時代にもあった、竪穴住居がある。(F-2)	お坊さんがいるのは、仏教が広まったからだ。(C-3)
② 複数の視点	偉そうな人は、働いている人と服の色が違う。	弥生時代はムラが柵で囲まれているが、奈良時代は囲まれていなくて、大きな道がある。	白い服の人が働いているのは、雑徭という農民の負担があったからだ。
③ 問い	どうして、高い建物を建てているんだろう。(A-1,2)	白い服の人たちは、どうして命令されているんだろう。	仏教の施設は豪華な建物なのに、庶民の住む家は竪穴住居のままなのはなぜだろう。

(筆者作成。カッコ内はタイムトラベルのなかの縦・横の位置を表す。)

当時の状況と政策の流れをとらえる。

**②意見の分かれる読解「働いている人は、喜んで働いているか、それとも、いやいや働いているか。」**

『アドバンス 中学歴史資料』p.27「貧窮問答歌」や、教科書p.39「大仏建立の詔」等の資料を提示し、当時の庶民の苦しい生活と、それでも東大寺の大仏建立のために全国から寄附が集まったことを伝える。生徒の読み取りを揺さぶることで、時代に対する理解を深めていく。

**(2) 政策評価**

政策を評価する活動を行うことで、歴史的な事象を覚えるだけでなく、自身で解釈するようにしていく。

**①「聖武天皇の政策の良い点は何だろう。」**

例えば、「仏教に力を入れ、天皇中心の国づくりを行った」等、自身の考えを記述する。

**②「聖武天皇の政策の悪い点は何だろう。」**

例えば、「貧しかった庶民に対して、重い負担をしいた」等、自身の考えを記述する。

**③「聖武天皇の政策を評価しよう。」**

聖武天皇の政策を評価し、5段階で点数を決める。そして、その理由も記述する。その後、班やクラスで共有したり、紙上討論を行ったりすることで、他者の考えをふまえて自身の考えを深める。

**4 おわりに**

最後に、本実践の意義と、評価について述べる。さまざまな情報にあふれる今日の社会において、情報を正しく読み取り、それを活用する力が求められる。本実践では、その力の1つである、絵画資料読解スキルに焦点を当て、必要なスキルを細分化し、それを身につけるための方略を示した。絵画資料から情報を読み取り、自身の知識を構築し、問いを立てて探求する力は、今日の社会で必要な力である。

本実践の評価は、以下の2点で行う。第一は、絵画資料読解スキルの評価である。授業中の読み取りは、スキルを習得するための活動であるので、評価とは分けるべきである。そこで、定期テストにおいて評価する。授業で用いたものとは別の資料を用意し、絵画資料読解表を用いて読み取り、表の各項目に1つずつ記述させる。第二は、政策評価文の評価である。これは、授業内の生徒の成果物を評価の対象とする。聖武天皇の政策の良い点、悪い点を論理立てて記述できているか、歴史的事実にてらして誤りがないかの観点で評価する。「仏教」や「墾田永年私財法」など、キーワードを指定すると評価しやすくなる。